

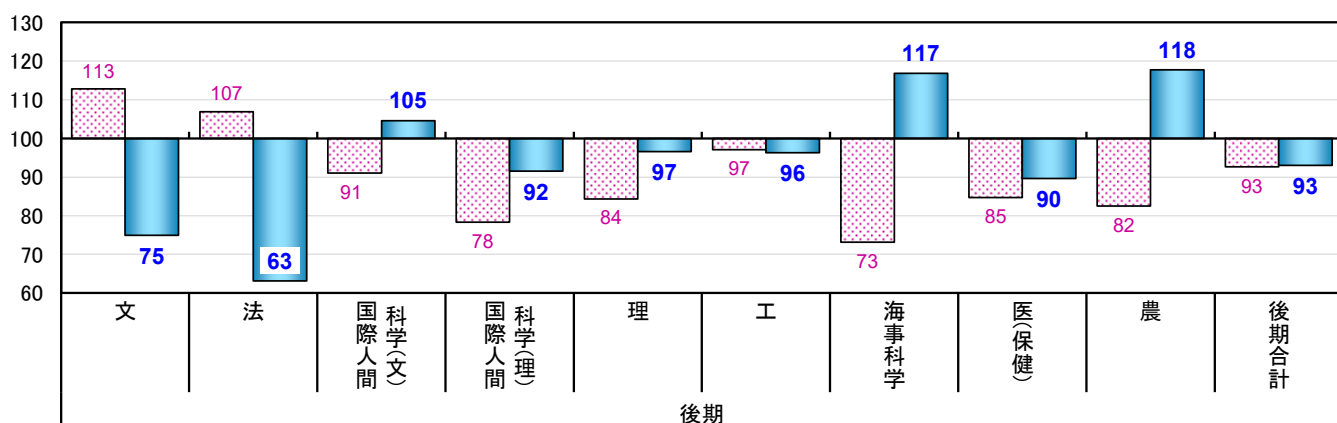
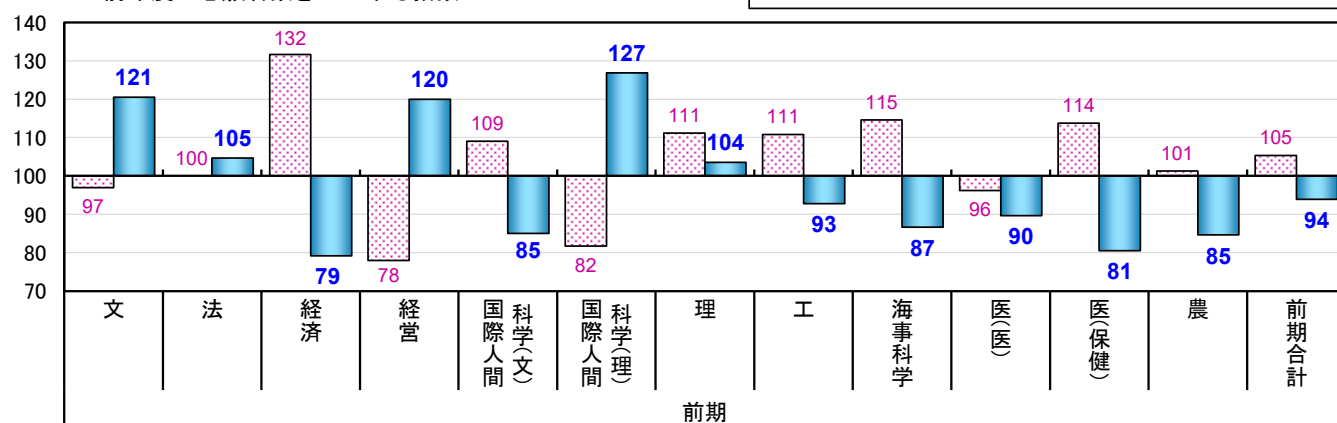
2020年度入試状況分析【国公立大】

神戸大：前期は理系の減少が目立ち、後期は文系で大幅減少 前期：-364人 後期：-280人

※前年度の志願者数を100とする指数

■2019年度/2018年度

■2020年度/2019年度



入試変更点 募集人員：医(保健/看護)〈後〉…8人→6人
名称変更：(生命機能科学/環境生物)→(生命機能科学/応用機能生物)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は364人(94)のやや減少。文理別では、文系は81人(97)のやや減少、理系は283人(91)の減少。後期は280人(93)のやや減少。文理別では、文系は286人(81)の大幅減少、理系は6人(100)の微増で前年度並。

〈前期日程〉

- 文(121)は、2年連続減少の反動で大幅増加。志願者数も3年ぶりに200人を超えた。
- 法(105)は、前年度の志願倍率アップの影響はなく、やや増加。
- 経済(79)は、4年連続増加の反動で大幅減少。3方式ともに減少で、(数学)(96)はやや減少だが、(英数)(60)、(総合)(80)の2方式は大幅減少。
- 経営(120)は、前年度の大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も3.3倍→3.9倍へアップ。
- 国際人間科学(89)は、前年度やや増加の反動で減少。募集単位別では(環境共生(理科系))(127)が大幅増加、他の4つの募集単位は減少、特に(環境共生(文科系))(52)はほぼ半減、(子ども教育)(88)と(発達コミュニティ)(88)の減少も目立った。
- 理(104)は、やや増加で2年連続増加。学科別では、(数学)(139)、(惑星)(120)はいずれも2年連続大幅増加。一方で、(物理)(78)、(化学)(79)はいずれも大幅減少。
- 工(93)は、やや減少。学科別では、やや増加の(市民工)(106)を除いた5学科は減少。特に、(応用化学)(87)は前年度大幅増加の反動から一番減少が目立った。
- 海事科学(87)は、前年度大幅増加の反動で減少。
- 医(医)(90)は、減少して3年連続減少。志願者数は250人にまで減少し、志願倍率3.0倍→2.7倍にダウンした。センター試験：個別試験の配点が360点：450点とセンター試験の占める割合が比較的大きく、個別試験が標準的な出題なため、センター失敗組が敬遠したことが減少の要因。
- 医(保健)(81)は、前年度増加の反動で大幅減少。専攻別では、4専攻すべてが減少。特に(保健/検査技術科学)(71)、(保健/看護)(81)の大幅減少が目立った。
- 農(85)は、系統への不人気も影響し大幅減少。学科・コース別では、6つの募集単位全てが減少、特に、(資源生命科学/応用動物)(68)、(生命機能科学/応用機能生物)(72)、(食料環境システム/食料環境経済)(79)はいずれも20%を超える大幅減少。

2020 年度入試状況分析【国公立大】

<後期日程>

- 文(75)は、大幅減少で志願倍率も 14.6 倍→10.9 倍にダウン。
- 法(63)は、3 年連続増加の反動で大幅減少。500 人を下回る志願者数は 2016 年度以来。
- 国際人間科学(103)は、やや増加だが学部改組後初めての増加。学科別では、(環境共生(文科系))(123)が大幅増加。一方で、(子ども教育)(74)は大幅減少。
- 理(97)は、やや減少で 2 年連続減少。学科別では、(数学)(115)が大幅増加、一方で、(物理)(86)の減少が目立った。
- 工(96)は、2 年連続やや減少。学科別では、(市民工)(117)が大幅増加、一方で、(情報知能工)(84)の大幅減少が目立った。
- 海事科学(117)は、前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 医(保健)(90)は、前年度大幅減少に続いて減少。専攻別では、(保健/作業療法)(62)、(保健/看護)(78)の大幅減少が目立った。他の 2 専攻は増加。
- 農(118)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科・コース別では、(生命機能科学/応用機能生物)(205)と(食料環境システム/生産環境工)(195)のほぼ倍増、(資源生命科学/応用植物)(121)の大幅増加が目立った。